

令和5年度広島キャンパス卒業式・大学院学位記授与式 学長式辞

本日、晴れて学士の学位をお受けになった学部卒業生の皆さん、そして修士の学位を授与された大学院修了生の皆さん、誠にめでたうございます。

皆さんの本学における大学生活は思いもかけなかった新型コロナウイルス感染症のために、苦難に満ちたものとなってしまいました。オンライン授業での受講、課外活動の自粛、さまざまな行事の中止など不自由なこと、困難なことが多々あったことと思います。しかし、その苦難を乗り越えて、本日、卒業の日を迎えられました皆さんの、勉学、研究への熱意、努力に対して深く敬意を表します。そして、皆さんにはこの苦難のときに、ご支援くださったご家族をはじめ、指導教員、先輩、同期の仲間、後輩など、多くのお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。

ところで、いま社会では、様々な分野で解決すべき課題が山積しており、皆さんは非常に厳しい環境にこれから身を投じることになります。現代の社会の状況を示した言葉に「VUCA」ブーカという言葉があります。ブーカとは、あらゆる事柄において未来を見通しにくくなった現代社会の状況のことで、ビジネスや教育の現場でも広く用いられています。Vは、volatility 変動性で、社会の価値観や仕組みの変動が激しい状態のことを意味しています。変動する世の中に対して柔軟な思考で受け入れ、適応する能力を身に付ける必要があります。Uは、uncertainty 不確実性で、予測を立てることが難しく、不確実な事柄が多い状況を意味しています。未来を予想しにくい中でも将来について考えなければなりません。Cはcomplexityで複雑性です。これまでにない複雑な社会を生き抜いていくためには、様々な角度から物事を考え、自分で解決していく能力を身に付けなければなりません。Aは、ambiguityで曖昧性です。はっきりとした正解が存在しない状況が生まれることを意味しています。前例のない問題に直面したとき、新たな道を切り開いていける能力を養うことです。このような状況の世界の中で皆さんが生き抜いていくためには、新しい環境や経験から素早く学び、それらを未知の問題に応用できる能力が重要となります。

ところで、先日100均で有名なダイソー創業者の矢野博^{やのひろたけ}丈さんが亡くなりました。彼は三原市のお隣、東広島市の出身で、1967年中央大学理工学部を卒業後、尾道市で魚の養殖業を始めましたが、失敗して借金を抱え、一家で夜逃げをしたそうです。その後、図書セールスやちり紙交換などの職を転々とし、28歳の時に日用品の移動販売の会社である矢野商店を東広島市に創業しました。創業間もない頃、忙しくて値札を付ける暇がなくなり、価格を100円均一にしたそうです。それが今の100均の始まりです。自分は人を喜ばせるのが好きで、これが100円？と驚きながらお客さんが選ぶのを見て、喜んでいたそうです。ダイソーは日本がバブル崩壊後の消費不況に陥った1990年代後半から急成長しました。人生の前半でつまづいた苦労人は、2018年74歳で社長を退くまで最前線におられました。今や店舗は国内外で5千店を超え、世界のブランドになっています。一代で世界のダイソーを作り上げ、夢を追い続けた郷土の経営者を皆さんはどう思われますか。私は彼こそ、ブーカのように先の見えない世の中で、時代を生き抜いた先駆者ではなかったかと思っています。経済状況の悪化や日本人労働者の減少により、終身雇用制度は崩壊を迎えつつあります。

今後は転職や学び直し、起業などの「マルチステージの人生」へと変化していきます。また、AIの発展や分業などにより、現在ある職業の半分が10年後にはなくなると予測されています。既存の職業に就くことだけでなく、変化に対応できる柔軟な進路設計が必要です。このような時、皆さんが迷われたら、本学のキャリアセンターを訪ねて気軽に相談してください。本学はいつでも皆さんを歓迎いたします。

すべての学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さんお一人おひとりの未来が輝かしいものとなりますようお祈りし、私の式辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

令和6年3月21日

県立広島大学

学長 森永 力